報告

The 4th International Symposium on Advanced Intelligent Systems (ISIS2003) 参加報告†

高間 康史*

1. ISIS2003について

ISIS2003は、Korea Fuzzy Logic and Intelligent Systems Society (KFIS)が主催する国際シンポジウムの第4回目であり、韓国の済州島 (Cheju National University) にて9月25-28日にかけて開催された。今回のシンポジウムは日本知能情報ファジィ学会(SOFT)との共催になっているが、昨年の第3回シンポジウムは、筑波で開催された SCIS2002と共同開催であった。来年は再び、横浜 (慶應義塾大学矢上キャンパス) で SCIS&ISIS2004として共同開催される予定である。筆者は一昨年 Taejon で開催された第2回シンポジウムから、3年連続の参加である。

済州島は「東洋のハワイ」と呼ばれることもあり、韓国の人にとっては新婚旅行先として昔から有名であったようである。島一周が約200km、中央に韓国で最も高い (ちなみに朝鮮半島では第2位だそうである) 漢拏山 (ハンラサン) が位置し、非常になだらかな裾野を島全体に広げている。島南部には中文などのリゾート地が集中しているが、本シンポジウムの会場となった Cheju National University は、空港に比較的近い北部に位置しており、広大なキャンパスが印象的であった。

本シンポジウムでは、ソフトコンピューティングを中心とした知的システムに関するシンポジウムであり、以下のようなタイトルのセッションの元にプログラムが構成されていた。

Intelligent System, Fuzzy Theory, Image Processing, Neural Networks, Intelligent Control, Genetic Algorithms, Soft Computing, Intelligent Human Support System, Information Utilization on the Net, Interaction for Intelligent Systems.

正確な参加者数、参加国数はわからないが、Plenary

Speech 3件、招待講演7件を含む105件の発表、65件のポスター発表があった。日本・韓国からの参加者がほとんどであったが、ギリシャやイスラエルなどからの参加者もあり、小規模ではあるが国際シンポジウムの雰囲気は十分に感じられた。

2. 会議の様子

26・27日の二日間に渡り、24セッションとポスターセッションがあった(図1)。全体的な印象として、若い研究者、特に日本からは学生の研究発表の占める割合が多く感じられた。筆者が見た限りでは、質疑応答においても建設的な質問・コメントが多く、これから国際的活躍を目指す若手研究者にとって、まず挑戦するにふさわしいシンポジウムであるとの印象を受けた。この傾向は以前からも変わらず、来年度の SCIS2004でもぜひ継続して欲しいと感じた。

筆者は、"Information Utilization on the Net"というタイトルのセッションを企画し、その中で "Toward Intelligent Web Interaction"のタイトルで招待講演をさせて頂いた。午後最後のセッションと言うこともあり、盛況というほどではなかったが、会場からの質問などにより、有意義なセッションであった。

Plenary Speech は、Prof. Chen (Tsinghua Univ., China) による "Overview of Fuzzy Associative

図1 ポスターセッションの様子

† The 4th International Symposium on Advanced Intelligent System (ISIS 2003) Report
Yasufumi TAKAMA

* 東京都立科学技術大学 電子システム工学科
Department of Electronic Systems Engineering, Tokyo Metropolitan Institute of Technology

Mining”, Prof. Kaino (Aoyama Gakuin Univ. Japan) による ”Development of New Management Prediction Support System based on Non-stochastic Model”, Prof. Chauvet (Univ. of Angers, France) による ”An Interpretation of Intelligence based on Mathematical Integration of Elementary Mechanisms in Biology” の3件とバラエティに富んでおり、いずれも興味深いものであった。

筆者は Web Intelligence や画像情報処理などに興味があり、それらに関する興味深い口頭発表やポスターもあったが、ここでは細かい研究内容以外で、筆者の印象に残ったものについて書きたいと思う。それは、日本知能情報ファジィ学会会長の福田先生の挨拶と、Prof. Chen による Plenary Speech である。

福田会長は、SOFT の名称変更について言及し、名称変更に込めた SOFT の改革への決意を力強く表明されており、筆者の印象に強く残った。また、Prof. Chen はデータマイニングにおけるファジィ理論の応用についての講演であったが、その中で「ファジィ理論があるから使うのではなく、必要だから使うのだ。」といった趣旨の発言があった。これらの発表・発言の中に、ファジィ関連分野の置かれている状況が強く表れており、関連研究者の攻めの気持ち、自らの研究を見つめ直す精神が SOFT、およびソフトコンピューティング関連研究の次のステップにつながるのだろうと感じた。

3. SCIS2004に向けて

27日夜にバンケットが催され、その中で次回 SCIS2004

図2 萩原先生による SCIS2004の紹介

の実行委員長である萩原先生より、SCIS&ISIS2004が紹介された(図2)。会場である慶應義塾大学にゆかりのある有名人として、一万円札に描かれている福沢諭吉や、小泉首相などをとりあげながら、会場を笑いで満たしつつ、次回シンポジウムをアピールされており、非常に好印象を与えたのではないかと思います。筆者も SCIS2004の運営に係わっているが、若手研究者が多く、活気ある ISIS の良さを大事にしつつ、より大きな成功を収められるよう、努力していきたいと思う。

[連絡先]

〒191-0065 東京都日野市旭が丘6-6
東京都立科学技術大学 電子システム工学科
高間 康史
tel/fax : 042-585-8629
E-mail: ytakama@cc.tmit.ac.jp